

(Genitourinary Syndrome of Menopause)**～ 閉経関連尿路生殖器症候群 ～ の
患者に清心蓮子飲が奏功した 1 例**

女性医療クリニック LUNA ネクストステージ

女性医療クリニック LUNA 横浜元町

関口 由紀、中村 綾子、槍沢 ゆかり**藤崎 章子、金子 容子、永井 美江、中村 仁美**

(はじめに)2014年から提唱されている概念が、Genitourinary Syndrome of Menopause (GSM・閉経関連尿路生殖器症候群)である。閉経に伴う外陰・膣の萎縮変化およびそれに伴う不快な身体症状で、中年以上の半数以上の女性が影響されているとされる。GSM症状としては、膣乾燥感・性交時の潤い不足・性交時不快感・膣と外陰のムズムズ/灼熱感/掻痒・頻尿・尿意切迫感・再発性膀胱炎等がある。外陰部の所見としては、尿道口の円形化、膣前庭部の乾燥、小陰唇の短縮などが認められる。治療は、性ホルモンの局所投与やレーザー治療である。一昨年、今年の今学会で、我々は、GSM患者の舌は、乾燥舌である場合が多く、なんらかの目の症状を訴えている人が多いと報告した。

今回これらの患者のうち、清心蓮子飲が著効した患者の症例に関して報告する。

(症例) 57歳、女性

(主訴) 陰部乾燥感・頻尿・口腔内乾燥感

(現病歴) 52歳で閉経、55歳頃から頻尿と陰部乾燥感あり、さらに最近口腔内乾燥感が著しくなってきたため、漢方治療を希望されて来院された。

(現症) 脈: 沈弱、舌: 乾燥しているが白苔なし、腹: 動悸(+) 軟弱
尿沈査: 異常なし、尿タンパク(一)、

(経過) 口渇、頻尿、尿所見正常からツムラ清心蓮子飲7.5 3を開始した。4週間後口の渇きがすこし改善。8週間後陰部乾燥感が改善、12週間後には頻尿の症状も軽快した。

(考察) フェムゾーン(膣と外陰)の症状に加え、乾燥舌と目の症状がさらにあった場合は、外陰部のケアに加えて清心蓮子飲が著効する例があることが示唆された。